

議長ティータイム

日時：令和2年12月28日（月）午後3時～

場所：議長執務室

1 今定例会を振り返って

本日はお集まりいただきありがとうございます。28日で仕事納めになってしまいました。まず今定例会を振り返ってということでございますけれども、今定例会で提出された新型コロナウイルス感染症等対策関連の一般会計補正予算は3件あり、第8次補正予算から第10次補正予算であります。

第8次補正予算は、介護施設・医療施設職員に対するPCR検査の実施や、地域共通クーポンを活用した消費活性化支援策など所用の経費に係る補正として、11月25日の開会日に上程されました。その際に知事からの先議案件として審議してほしい旨の要望を受けたことから、直ちに所管の常任委員会に付託し、本会議終了後に委員会での審査を行い、12月2日の代表質問初日の冒頭において、全会一致で、議案のとおり可決されたところでございます。

第9次補正予算は、低所得のひとり親世帯に対する臨時特別給付金に係る補正として、12月9日の一般質問4日目に上程されました。その際副知事からの先議案件として、審議してほしい旨の要望を受けたことから、質疑の後、直ちに所管の常任委員会に付託し、翌12月10日に委員会審査を行い、12月11日の本会議にて議案のとおり可決させていただきました。

第10次補正予算は、営業時間短縮の要請に協力いただいた事業者に対する感染拡大防止協力金、いわゆる時短協力金に要する経費に係る補正として、12月16日に上程されました。当日は特別委員会開催日で本会議は休みの予定でありましたが、同議案を審議するため本会議を開き、知事からの提案理由の説明の後、直ちに所管の常任委員会に付託いたしました。翌12月17日に委員会での審査を行い、12月21日の最終本会議において、全会一致で議案のとおり可決させていただきました。甲第1号議案、令和2年度沖縄県一般会計補正予算(第8号)と、甲第6号議案令和2年度沖縄県一般会計補正予算(第9号)及び甲第7号議案令和2年度沖縄県一般会計補正予算(第10号)は、それぞれ総務企画委員会に付託しています。令和2年の1年間で計上された新型コロナウイルス感染症対策関連補正予算の総額は、令和元年度(前年度)の補正予算170億円及び12月23日付けで知事が専決処分を行った第11次補正予算34億7000万円も含め、合計で1470億円となっております。

請願・陳情処理については、令和2年における請願の受理・付託件数が5件、陳情は245件、計250件になりました。これは、前年度の153件と比べて、約100件の増、また、議員改選のあった平成28年の209件に比べても約40件、20%の増となっております。

議員改選の年には、受理・付託件数が増加する傾向にありますが、今年はそれだけでな

く、新型コロナウイルス感染症に関する請願・陳情が多く見られ81件に上っております。
請願・陳情は、その時々の方の事情に反映しますので、今後も真摯に向き合っていきたいと思っております。

2 質疑応答

(記者)

今年の一文字とか何かありますか。

(議長)

今年の一文字。ちょっとしゃべりながら考えたいと思います。

(記者)

議会はいわゆる打ち上げ的なものはないんですか。

(議長)

うちはないです。打ち上げないですよ。もう私もしばらくお酒も飲んでないし。全然。コロナが大変になってきているし。

(記者)

そもそも例年打ち上げてあんまりしないんですか。

(議長)

そんなことないよね。議会は議会で忘年会もあるし。初議会のときは、知事と一緒に集まりもありますよ。これは議長としてではなくてね。翁長前知事のときにやったりとか。後は会派でそれぞれの振り返りをするというのがあったと思いますけど、今回はコロナというのは全国ニュースになるのでなかなか厳しいかなと思いますね。

(記者)

議長としての公務は年内はコロナの関係でもうないんですか。

(議長)

公務はないけど、細かい正式なコロナのお願い、相談はたくさんあります。だから議会が終わったのを見計らって、電話がオープンなのでたくさんかかってくるんですよ。

(記者)

要は議長に会いたいということや要請したいとかですか。

(議長)

そうですね。もともと私は自分の携帯番号をオープンにしているので、コロナの関係も

あり直接提案や相談といったものがたくさんかかってきます。やはり今はコロナが多いですね。各種、各界、医療関係者もそうですし、経済関係者も来ますね。最近は特に北部や離島の相談が多いかもしれません。それだけやはりみんなびくびくしているというか。やはり伊平屋のようなクラスターが起きると、途端に医療崩壊を招きますからね。恐らく、伊是名の村民、伊江島などのような小さな離島の方々も大変怖がっているかもしれない。年末年始になると、医療体制がもともと脆弱なので、これが万が一クラスターが発生した場合の対応はという問合せがあったりしますので、やはり怖いですね。だからその辺りの年末年始の医療体制で、市町村長、各市町村との連携、あと何かあった場合の体制、窓口はつくったほうがいいんじゃないかと、まあ今でもあるとは思いますが、特段副知事あたりをお願いしようと思っていますね。コロナが出て、その後の対応はどうしたらいいかわからない、誰に連絡したらいいかということがはっきりしないと大変ですし怖いですね。なので、そこをこの後お願いしたいですね。

あと伊平屋が島民にPCR検査というお願いも分からなくはないので、この辺も万が一、こういった小さな離島が必要とする場合はどうするのかということも念頭に置かないといけないかもしれませんよね。本島とはまた全然違うんですよ。医療体制が脆弱、お年寄りも多いし、多分首長はびくびくしているかもしれないですね。

(記者)

県議でコロナが出た場合は、年末年始関係なく前回のときのように発表されるんですか。

(議長)

はい、うちはもう出たらすぐ対応します。年末年始だったから発表しないというのは大変です。休みは関係ないですからね。この体制をしっかりとやっていきます。

(記者)

6月に改選して野党中立と与党、議席が伯仲して、議長席から御覧になってどうですか。

(議長)

議長になって半年させていただいている中で、12月議会は知事が体調崩して来られなかったですけど、議会自体は非常に活気があるんじゃないかなと思っています。議会の役割としては、改選した時期でもあるし、新しい議員も含めて活発に議論することは非常にいいんじゃないかなと思っていますので、議長としてはそこは最大限、議員の質問権、ルールもあるので、あとは事務局とのやり取りではあるんですけど、このこととあと各派それぞれに代表質問の時間を設けたことや、極力各議員にも質問時間の全体の時間を減らしつつ増やしたことは、議会としては非常によかったのではないかなと思っています。いろいろ課題もあるかもしれませんが、それはよかったのかなと思っていますね。

(記者)

議長席から御覧になって、与党の課題や野党の課題、もちろん議会の中ででもいいですし、例えばその質問の鋭さとか、ちょっと甘いとか、そういうのはありますか。

(議長)

自分ですか。これ言った途端、これ以上の問題が起こるよ。すごい質問を投げかけてきますね。

(記者)

正月挟んだら大丈夫じゃないですか。

(議長)

いやいやいや。正月は力を蓄えてくるよ。議員それぞれが、みんなそれぞれ個性があって、事務局も含めてそれぞれの視点でやっているの、議会の役割というのは改めて、改選した年でもあるので、何のために議会があるのかということそれぞれが考える。だから新人が入ってくることもいろいろな意見が出てとてもいいことではあるんですよ。だから慣例、前例主義じゃなくて、いい提案があるんだったら、これは積極的に言ってもらうことは非常に大事じゃないかと私は思いますけど。そこはそれぞれまた、6月、9月、12月議会と経験して感じ取った気持ちを、新しい議員が次はこうしたいという意見が出てくることは、特に大歓迎じゃないかと思っています。議会としては、他府県を聞いている限りでは、沖縄の議会は活発だと私は思いますよ。非常に多岐にわたるので、基地問題を筆頭に、今回コロナの件も含めていろいろと議論することはいいことじゃないかなと思っています。ただ、コロナが今後も続いていくとなると、さっき言った陳情・請願、それから議会もいろいろと対策は打ってきたんですけども、この件についてはやはりしばらく続くんじゃないかと思っています。

(記者)

伯仲して変わったことってあるんですか。

(議長)

伯仲して変わったことは執行部が緊張することですよ。これが大きい。最初から安定多数かそうじゃないのか、要はそういうことですよ。それによって、例えば那覇港湾の浦添移設などのように、今回知事を支える与党の会派でも割れていますよね。これがいいとか悪いとかというよりも本来あるべき姿の一つでもあるんじゃないかなと思っています。全てそろうことが大事なのかどうかも含めて、それぞれの議員、那覇港湾移設の問題というのはいろいろな意見があるので、そこについてはまさに伯仲でしょうね。今後こういった事例もまた出てくるでしょうね。なので今の議会構成でいうと、やはり緊張関係というのは続くと思うし、それが結果県民にとっては悪いことではないと私は思っています。

(記者)

答弁とか見ても。

(議長)

はい。やはり緊張関係があるということは、県民にとって非常に、最後は県民のためになればいいと思ってますから。議論の結果が、要するに知事の足を引っ張るための議会なのか、知事も自分の視点だけでやるのか、私は県民のためになればいいと思っていますので。議会の役割としてはそれができれば一番いいんじゃないかと思います。

(記者)

意見書などでも意見が割れたりとか、あれも本来の姿ですか。

(議長)

いや、最初から調整してやる場合もあれば、やはりどうしても今回尖閣の件もそうですがこの間温度差があったりしたんですけれど、全会一致で 12 月議会で取り消す意見も出したりもあって。やはり政府に対することも県民目線でのことなのでそこは違うんじゃないかということで。議会として明確にいろいろな意見はあったと思うんですけれど、そこをやるということはいいことだろうし。基地問題も、要するに辺野古については意見が割れてはいますけど、やはり事件・事故については、ちょっと違うんじゃないかということは、まとまるところは、そこはやはりちゃんと機能としていいのかなと思いますけどね。

議会の合間を見て、田中防衛局長と在沖米国総領事のケプキーさんに挨拶をしてきたんです。お二方にお願ひしたのは、米軍関係者のクラスターが発生したのでその件については大騒ぎになったこともあり、その後政府も対策を打ってくれてもいるんですけれど。沖縄県も政府と連携して事前に一、二週間の様子見じゃなくて、ちゃんと隔離・検査をするということになって、これはもし可能であれば、法的な部分はよく分からないですけど、こちらに入ってくる軍人さんについては向こうで承認されている部分でもあるので、率先してワクチンを接種していただきたいということはお願ひしました。やはり沖縄は働いている従業員もたくさんいますのでね。

(記者)

それに対して何かあったりはしましたか。

(議長)

一応お願いなのですぐやるというわけではないですよ。ワクチン接種は国内でこれがどういう優先かよく分からないですけど、こちらに入ってくる軍属の皆さんについては、率先して打てるんだったらそのほうが安心かなとは思いますがよということはお願ひしました。

(記者)

一部で出ましたけど、その日本人の従業員、基地従業員がワクチンを接種するというのは頼んだのでしょうか。

(議長)

いやこれは頼まないですよ。これは国内のことなので、私はあくまでも防衛局もこうい

う手段があるけれど、そこに一緒に県民の基地従業員は働くのでね。私らはやはり県民を守らないといけないのでね。そこはまず沖縄に入ってくる側のワクチンは打てるんでしたらお願いしたいということは伝えました。片やこっち側のものについては、日本、今度は国内の問題もあるので、一概に米軍基地従業員だけを先にとというのも賛否はあるでしょうね。国内の問題としては、アメリカ本国についてはワクチンは認証されているけれど日本の場合はまだですよ。だからその辺りを差し置いては、国民の立場でいうとなかなかそこまではいっていませんね。ただ議論は出るかもしれないですね。

あとコロナの話ばかり出てるので沖縄振興計画などについてもですね。特別委員会もできましたので特に2月の予算議会なども含めて、今後沖縄振興について、年明けからはよりこの件の議論がさらに活発化することは期待したいと思いますね。今もやってはいますが、やはりどういう形になるか、国の財政も厳しいでしょうからね。

(記者)

2月議会は予算議会で議席が伯仲する中で、知事の提案する予算がひよっとしたら通らないという可能性も出てくるのかなと思って、それで緊張感のある議会になるのかなと思うのですけれど。

(議長)

そうですね、2月議会はもうまさに、先ほどコロナの補正予算がずっとあったんですけど、今後の2月議会はまさにこの各議員、各党派、各政党が、それぞれこの1年の予算を審議するわけですから、さらに活発な議論と、その議論によってどのように流れていくかというのはまたそこはなかなか読めないところではあるんです。けれども、これがまさに拮抗しているということが予算などについてどう反映されるかというのは、県民は注目するでしょう。ただ、結果が県民のためになればいいなと思っています、そこは県民も注目してもらいたいなと思っています。

(記者)

今年は豚熱から始まって、コロナで大変な一年だったんですけど、来年はどのような年になってほしいとか、来年はその議会のあるべき姿とかに関してはいかがですか。

(議長)

平時じゃないと思っていますので。年末になって余計にコロナが全国的に増えてきている中で議長になって初めての年末年始ではあるのですが、やはり何よりも今、沖縄県内の離島も含めた感染症をどう防ぐかということは、まさに沖縄県知事、県執行部も県議会も問われていると私は思っています。国も対策するだろうけど、国が全部ということをしてしまうと、じゃあ県と議会の役割は何なんだということになるので、この時代ほど政治家の力量が問われる時代はないのかなと思います。県知事にしても、県にしても、議会の役割にしても、それが機能しているかしないかによって、県民、これは県民というのは有権者だけじゃないですよ、子供からお年寄りまで全てに影響する局面なので、そこは来年はさらに国民問わず、県民は厳しい目で政治家を見ると私は思います。だから誰かがやれば

いいだろうとか誰かが悪いだろうということよりも、じゃああなた方は何をしたのということ問われる年になるんじゃないかと私は思います。

(記者)

それは感染症対策と経済の両立ですか。

(議長)

特にコロナについては感染症対策と経済、そのとおりです。結果、県民生活ですよ。だから対策などできないところもあるかもしれないですけど、でも何をしたかというのは問われると思います。

(記者)

関連なんですけど、その辺でいろいろ動いてるじゃないですか。前の議長と比べて与党からも結構今の議長の行動にちょっと批判とかも出てますけど、その辺の指摘も踏まえて、今後はどうですか。

(議長)

直接の指摘はないんですけどね。指摘と言われても、何を指摘されたかも分からない。マスクを通じて批判のことを書きなさいと言われても。議員なんだから。議長室はオープンにしているし、そもそも私の携帯もオープンですから。言いたいことがあったら直接言ったらいかがですかという話です。裏でじゃなくて、マスクじゃなくて、ネットでもなくて。どうぞ、いつでも。私は県民と向き合っていますから。まずこれが一つです。

この前国交省に行ったら、知事は11月は毎週来てましたよと言ってましたよ。それは批判されないんですかと。相対する政党のところにもやはり知事は行きますよね。私らは別に特段どこどこにお願いとかじゃなくて、本当に全て県民のために、まさに今コロナの予算を那覇空港などでも何かできないとか、何とかコロナ対策、PCR検査などをお願いに行っているんです。けれど、これは全て東京事務所経由なんです。東京事務所経由ということは、全て知事の配下の職員を活用してアポをとっていますから。政務については、個人的な動きがそれなりにありますよ。ないと言えません。ただ私たちもお願いするところはちゃんとお願いしないといけないところもありますからね。

就任して、もうほぼ挨拶関係は終わったんですけども、全国議長会や九州議長会などに行くといろいろな方々とお会いするので、やはり挨拶に行かないと、後々沖縄振興審議会などもあるし、やはり県民にとって不利益になるんじゃないかなという心配があるので難しいところなんです。

(記者)

自民党だから行っているというよりは、政権与党が立憲だったら立憲にも行くという感じですか。

(議長)

はい。どこの政権になっても私は行きますよ。なぜなら県民のためですから。かと言って毎回行くわけではなく、就任したとき、あと大事なときが来たときには行きます。

(記者)

議長としてこの平等は心がけてはいるんですか。

(議長)

もちろん心がけてますよ。心がけなかったら、例えばですよ、本会議でも質問は議会の構成に倣ってるつもりですよ。違うのがあれば一旦止めてすぐ相談する。これはどうするのってずっと相談していますよ。前例とかって言って止めて。場合によっては議運に投げて。基本は自分でジャッジしないんですよ。前例を見てこれはこうだよ。でもどうしても前例のない場合があるんですよ。こういうときはもう議運に投げかけるしかないんですよ。だから議場でああだこうだって言ったら、議員はみんな熱くなってるのでけんかになりますからね。引き取るしかない。だから議会、特に本会議場では、職員がいるのでそのメンバーと相談しながら、こういう事例があるよと。で、これはどうするって、この場で言える場合と言えない場合は引き取って対処しています。

後は今言うように、公務として行く場合は、お願いすることはほぼ全部コロナと沖縄振興についてですが、そこは今言うように、今が自公政権という理由で行っているんじゃないです。別に政権が代わってもお願いするときはお願いしないといけない。知事もそうですよ。そういうことです。

(記者)

今年の一字は決まりましたか。また、来年の一字もよろしいですか。今年の一字と、来年こういう年にしたいみたいな。

(議長)

今年の一字。うーん。

(記者)

コロナ禍の禍って挙げる人も多いと思いますけど。

(議長)

そうですね。今年と、来年の一字。これが一番難しい質問だよ。こういう質問されたことないので今すぐ思いつかないので連絡しますね。

(記者)

じゃあ連絡してくださいね。

(議長)

今年はコロナの件で本当に電話が一番鳴りっぱなしでしたよ。

(記者)

いつも県民のために。本当に普通の人から電話がかかってくるんですか。

(議長)

かかってきますよ。普通の人です。だって、携帯オープンですからね。真面目な相談が大体6割、批判が2割ですね。あなたがどんなに頑張っても世の中よくならんっていう開き直りが1割。あなたが頑張っても無理だからねって人もいる。あと1割は浮気。こんな話あるけどどう思いますかといった個人の相談です。

(記者)

ばれそうとかそういった話ですか。議長って分かってて電話しているわけですよ。

(議長)

もちろん分かってますよ。

(記者)

酔っ払っているわけじゃないですよ。

(議長)

自分の旦那がこうです、自分の妻がこうですといった話は私では対応できないですからね。こういうときはすぐ相談センターに連絡するよう伝えます。これはちょっとはまったら大変なことになりますからね。また、虐待についても何度もあります。

(記者)

これはやはり議長になってから増えましたか。

(議長)

増えました。お金の相談も増えました。お金どこか貸すところないね、とか。じゃああなたが貸して、って言う人もいます。だから電話をオープンにするということは、対処の仕方を間違えると大変なことになるので一応電話はとります。でも9時以降はとらないです。夜の9時以降は大体酔っ払っていますから危ないわけですよ。だから朝です。

(記者)

議長一つ気になっていることを聞いてもいいですか。

(議長)

はいどうぞ。

(記者)

フェイスブックで朝に大体自転車で行ってきますっていう投稿があるじゃないですか。最近宜野湾での活動が多いなと思っていて、それは何かありますか。今日の写真を見ると宜野湾海浜公園でしたよね。

(議長)

浦添で自転車に乗っていないのは、2月に浦添市長と市議選挙があるからなんですよ。自転車に乗っていたら選挙妨害って言われるんですよ。

私は4年間自転車に乗っているんですが、あれ何で行ってきますという投稿をするかという、今から出るよという合図なんです。

(記者)

時間的にいつも大体何時ぐらい、6時、7時ぐらいですか。

(議長)

時間は決まってないです。だから行ってきますと投稿するんですよ。出張があるときは、4時くらいから乗るときもありますよ。

(記者)

朝4時。不審者ですね。

(議長)

そうですね。だけど、4時ぐらいにも出勤する人がいるんですよ。数は少ないですけど。4時5時は余計に目立つんですよ。大体、浦添だとコースが狭いので、走っていたら、平均して5名くらいに声かけられるんです。ちょっと来てって相談が実際に来るんです。行ってきますと投稿して自転車に乗っている理由は、電話はできないけど、信号待ちなどで何か声をかけてくる人、待っている人がたまにいるからなんです。だから行ってきますなんですよ。で、そこで会ったらもっと話を聞きたくても、でも時間がなかったり、仕事があったりするんで、10分くらいで、じゃあ後で私から電話しますよねってやり取りをするんです。だから1日1回は捕まるようにしているんですよ。必ず1日1回どこかで自転車に乗っているのは日課なんですよ。ところが、ここ2か月自転車に乗っていないのは、お前県議選終わったくせに自転車乗るなって言う人もいますよ。邪魔だと。浦添市長選挙に立候補するのかといったいろいろと話が出てくるのでね。で、遠慮して、私は家が牧港なので宜野湾マリーナが近いので、そこまで行って、あそこの公園内を歩いているわけです。

(記者)

なるほど。

(議長)

で、浦添で歩くと、大体同じパターンで今度はもう知り合いが多すぎて、ウォーキング

にならないという違う問題が起きるわけですよ。

では今日はこのへんでおわりましょうね。

来年もよろしく願います。どうもありがとうございました。お疲れさまでした。